

# あせがらんちゃよかバイ！ 平成24年6月1日（金）

## 新米町人、今博多町「小屋入り」参加の記 幹事 今道穎治

いつもの史談会の作業部会の後だったか、宮川先生「ところで、今年は今博多町は踊り町さね。何人かは町内で参加してくれませ。」史談会の事務所は宮川事務所にお世話になっている。

今博多町は、桶屋町と並んで創設以来町名と区域が変わっていない町なんだそうです。「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら・・・」史談会員たるもの先ずは参加してみなくては「くんち」は語れない。と原田先生のおだてに乗って手を挙げたのが元気な大塚、福田、稲岡、村崎の各氏と今道、それに町年寄の家柄だが今は螢茶屋の住人高木監事も強引に誘われて原田、宮川両先生とご一緒することには相成った次第。当日は常連の山口広助さんも加わられた。

となると、さて問題は紋付、袴。大村高校のボートレースの応援で、親父のを身に着けたのは何と60年も昔の話。宮川先生に貸衣装の手配をお世話になり、着付けも先生ご夫妻のほか、松沢幹事がお知り合いの松尾よし子さんと呼んでいて下さった。この方はもとニュー長崎ホテルの着付けのプロ、手際よく次々と正装が出来上がる。高校時代は裸足に朴齒の下駄、鉢巻に日の丸の扇だったのが今度は白足袋に雪駄といういでたち。

7時30分、岡部栄一今博多町自治会長、宮川隆治奉賛会長を先頭に役員方、花柳寿々初師匠と踊り手、松永鐵文歌師匠と地方、傘鉾棟梁は田手原組若杉孝志さん、我々町人の後に続くシャギリは池田勇夫頭領と間の瀬の皆さん。揃って今博多町は消防第6分団前を出発した。

今博多町の坂を上り日銀前から踊り馬場を通過して拝殿へ向かう。我々が最初の踊り町だ。一列になって長坂を上る和傘は美しい。だから「くんち」に本踊りは欠かせない。見とれていると袴の裾を踏んでしまった。



あせがらんちゃよかバイ！

「あせがらんちゃヨカ、カメラの狙うととは踊り手さん達バイ。」拝殿で清祓いを受け、新大工町を通過して伊勢の宮へ。役員一同整列して参拝。中通りから銀屋町に曲がり同町の接待を受け、八坂神社で清祓い。帰路は油屋町から浜町アーケードを通過して鏡橋を渡り、築町から電車通りを帰って来た。11時30分。宮川事務所昼食、一休み、近所のお店の皿うどんは美味だった。

午後3時、原田、宮川、高木と残して若手6人は再び両会長を除く役員さん方、シャギリと集合、「打込み」に出発。先ずは踊りの振付、指導の花柳師匠のお宅。続いて新大工町から古町、勝山町から玉園町へ上り、船津公園の金屋町へ下りて商工会議所へ、上田会頭ほかの皆さんが玄関で出迎えて下さった。出雲大社の桜町。魚の町から新橋町、諏訪町。磨屋町から川端の西古川町、榎津町から籠町へ。折返して江戸町、賑町と無事完歩。気温も上昇して途中の町々の事務所でのビール、お茶、なかでも「おしぼり」が有難かった。

帰り着いたら汗びっしょり。またまた宮川先生の奥様にはお世話になりました。大塚氏の万歩計はこの日2万1,000歩を記録した。膝が心配だった福田氏も完歩。私事ながら早朝、稲岡幹事の妹さん、従弟さんにもお世話になりました。

小屋入りが終わって各踊り町は練習に入る。省エネの夏はあつという間に過ぎ、すぐ秋の本番が来る。

(写真はいずれも幹事・大田由紀氏提供)



「打込み」 諏訪小学校